

地域ケア圏域会議 取組状況と課題

圏域	日時・会場	参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	検討を通じて把握された課題
練馬	平成28年10月6日(木) 14:00~16:00 ココネリ・ホール	民生委員 6名 自治会・町会 1名 介護支援専門員 28名 介護事業所 30名 支所職員 15名 本所職員 8名 計 88名	高齢者の見守りと居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の方を適度な距離感で見守れる地域資源を検討する。 ・緊急時に即座に対応できるネットワークを構築する。 ・グループワークを通じて、地域ごとに社会資源マップを作成する。 ・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が行きたい場所として、地域の高齢者が集える場所、相談ができる場所、趣味活動、健康体操ができる場所などについて、マップづくりなど、可視化することの重要性が確認できた。 ・地域ごとに、趣味活動や公共施設、買い物、食事、入浴施設など、生活に必須な場所も含め様々な社会資源の把握ができた。 ・社会資源の把握を通じて、地域に何が不足しているかの確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活エリアの中に健康体操や趣味活動等を行うことができる施設等が少ないため、将来自分が高齢者になったとき、活動が見つけられないのではないかと不安がある。 ・近隣にどのような社会資源があるのか把握できていない住民が多く、情報の周知が不足している。 ・社会資源を把握した後に、それらをいかに活用するかについて具体的なイメージが持てていない方が多い。
光が丘	平成28年6月10日(金) 14:00~16:30 光が丘区民センター3階 多目的ホール	民生委員 3名 老人会 2名 消防署 6名 介護支援専門員 43名 行政職員 6名 支所職員 11名 本所職員 7名 計 78名	独居で生活している方の緊急時の体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署における高齢者の救急活動について理解する。 ・高齢者に対する見守りや地域の活動を理解する。 ・高齢者の救急対応時における課題を抽出し、支援方法の検討や新しい資源・施策の提案を行う。 ・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光が丘圏域では高齢者の自宅内での事故による救急搬送が他署に比べて多くあり、自宅内の環境整備に課題が多い傾向にあることが判明した。 ・救急隊要請の際に迷うときに相談できる福祉関係者等相談窓口を光が丘消防署では設置しており、救急隊との情報共有のあり方について確認できた。 ・地域の住民間で高齢者の見守りを行っているが、心配な高齢者も多く、緊急時の対応に苦慮することが多いため、住民間の見守りの仕組みづくりが必要であることが確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡先については、連絡が取れないことや不明なことが多く、その取り扱いについての地域でのルールづくりが必要である。 ・近所付き合いが薄く、近隣に知人等が少ない高齢者について、地域で気軽によりあえる場の充実が必要である。 ・独居高齢者で近隣からの関わりを拒否して孤立している方の見守りを行う方法について、さらなる検討が必要である。
石神井	平成28年10月18日(火) 10:00~12:00 石神井庁舎5階会議室	民生委員 10名 自治会・町会 9名 介護支援専門員 9名 行政職員 3名 支所職員 17名 本所職員 6名 計 54名	集合住宅の今~見守りあるコミュニティをめざして~	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅で生活しているひとり暮らしの高齢者の「ひとり」の背景を考え共有する。 ・集合住宅の抱える共通の課題「独居・男性・認知症・繋がりにくい」について、関係者間で情報共有を行う。 ・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について報告し、地域の関係者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の住民や自治会を運営する会員の「高齢化」が顕著であった。 ・各自治会・町会で、お茶会やカラオケ、麻雀、囲碁等のレクレーションを開催し、閉じこもり傾向にある高齢の住民に参加を呼びかける取組について共有できた。 ・防災訓練を実施し、関わりの薄い住民との関係づくりを行うことの重要性が確認できた。 ・どの地域も「近隣と関わりを持ちたい」という意識は高いが、その「方法」が分からないという状況が判明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣との関わりを拒否し孤立している住民については、見守り等が困難であり、地域で見守る体制づくりについて検討が必要である。 ・高齢者の支援にあたり家族の緊急連絡先等の情報が必要となることが多いが、個人情報保護の観点から情報共有に課題がある。 ・集合住宅における高齢者の支援については、その住民だけで解決を図るのは困難な場合もあるため、近隣住民も含めた支援が必要である。
大泉	平成28年9月14日(水) 14:00~16:30 大泉中学校セミナーハウス 研修室	民生委員 12名 医療機関相談員 1名 民間清掃事業者 1名 介護支援専門員 28名 行政職員 2名 支所職員 19名 本所職員 6名 計 69名	大泉地域における高齢者の生活環境を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議から抽出された、高齢者の住宅内におけるごみの溜めこみ等の生活環境に関する課題について取り上げ、支援方法の検討や、資源の共有、開発につなげていく。 ・各支所で開催した地域ケア個別会議の内容や地域の課題等について、地域の関係者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のごみ問題等に関わる区の関係部署や地域の医療機関、民間の事業所等、関係者の持つ情報を共有することができた。 ・事前アンケートで、ごみ問題等の事例に関わっている介護支援専門員が多いことが確認できた。 ・生活環境が問題となる要因として、認知症等の何らかの病気が背景にある、社会から孤立し孤独を感じている、話し相手がいない、物を捨てられない等、様々な意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りや声かけが必要である一方、関係性が構築できていない高齢者に対しては声掛けが難しい状況がある。 ・生活環境に問題のある事例（ごみ問題等）は、外からは見えにくいため把握できていないことも多く、今後も増加が懸念される。 ・高齢者の見守りについては幅広い世代間での対応が求められているが、若い世代や子ども達への啓発が不足している。